

学校関係者評価報告について

専修学校熊本YMCA学院
 学院長 神保勝己

専修学校熊本YMCA学院では、すべての教育内容や通常の業務において、現状を点検し、更なる改善・向上を図っていくため自己点検・評価に取り組み、「学校評価報告書」を取りまとめ、本校ホームページ上で公表いたします。

去る2021（令和3）年5月に、学校関係の知見が深い方々を中心にご意見等を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、学校全体に係る「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき感謝申し上げます。

また、あらためて学校評価の重要性を認識したところです。ここに、学校関係者評価の内容につきまして報告いたします。今後とも、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

記

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、本校の「2020年度 自己評価」について、専門学校に関係の深い評価委員に評価していただいた。

各評価委員には、学習の成果についての報告を行い、委員会にて意見等を聴取した。その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 委員

	氏名	所属	専任区分
外部 関係者	村上 泰浩	崇城大学 工学部 建築学科 教授	有識者
	櫻井 孝一	ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ	企業
	本田 あずさ	武蔵ヶ丘病院 診療情報管理士	卒業生
	渡邊 裕晃	西合志中央保育園 副主任	卒業生
	中村 賢次郎	公益財団法人熊本YMCA 統括本部長	企業
	神保 勝己	熊本YMCA学園 学院長	職員

3. 委員会

日時：2021年5月31日（月）18：30～20：30 ※オンライン会議

（1）開会 学院長挨拶

（1）議長選出 中村賢次郎委員

(3) 2020 年度学習の成果及び自己評価

○2020 年度教育目標に対する成果について

- ・2020 年 3 月、緊急事態宣言に伴う休校を余儀なくされたが、4 月当初からオンライン授業を導入し、学びの機会を保障。授業再開にて、感染予防対策を徹底し、施設見学や卒業生講話、セミナー開催等を実施。また、学びの集大成として建築科、医療事務情報管理科、診療情報管理士専攻科、ビジネス総合学科、児童福祉教育科が、卒業制作に取り組んだ。
- ・検定合格率平均 70%の目標に対して、平均は 72.7%であった（昨年比+3.2 ポイント）。
2019 年の建築科卒業生で、1 級建築士の学科試験 2 名合格（設計製図不合格）は、嬉しい報告であった。
主な資格 診療情報管理士 100%、医師事務作業補助者実務能力認定 100%、情報処理検定準 2 級 91.7%、
介護予防運動士 100%、宅地建物取引士 50%
- ・専門分野への就職率は 96.3%（昨年比+0.1 ポイント）。
- ・令和 2 年熊本県南豪雨災害における災害支援ボランティアにのべ 300 名の学生、教職員が参加。
- ・退学率は 6.0%（昨年比-1.1 ポイント）。

○2020 年度学校自己評価集計表について

教育理念・目標について

- ・新校舎移転に伴い、あらためて教育理念・目標の再確認を行い、学院の方向性の共通理解の必要性がある。

学校運営について

- ・コロナ禍における留学生の受け入れは、今後、影響してくる。社会人の学び直し等、入学者対象を広げ、安定した運営につなげていく。

教育活動について

- ・教育課程編成委員会にてご助言いただき、各学科において、より関係分野のニーズに合った内容にカリキュラムの変更を行った。
- ・コロナ禍の中、オンライン授業を余儀なくされた。今後も対面授業のみならず、オンライン授業をより効率的に活用していくための研究が必要（演習等）。
- ・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上ための取り組み、職員の能力開発のための研修等について、継続的な取り組みが必要。

学修成果について

- ・コロナ禍の中、サービス業（販売、接客、スポーツ）、ホテル関係の分野は厳しい状況であった。
- ・学科を超えた学生との丁寧な関わり、また、修学支援制度、コロナにおける補助金等の活用を行い、経済的支援による退学者率の減少が見られた。
- ・同窓会については、全国 YMCA 専門学校より情報を収集し、継続研究中。

学生の受け入れ募集について

- ・入学者数前年比+10%となった。
- ・建築科の募集が好調。他学科においても、募集強化が必要。

社会貢献・地域貢献について

- ・県南を中心とした豪雨災害への支援ボランティアに参加。今後も息の長い関わり、支援の必要あり、学生への呼びかけを行っていく。

(4) 質疑応答および意見

- ・コロナ禍において、オンライン授業の早々の導入は良かったのではないかと。テレワークや働き方改革におけるデジタル化は必須である。
- ・新校舎での地域とのつながりや、防災拠点としての働きを今後も継続して行ってほしい。
- ・旧校舎で移転の煩わしさをはらみながらの業務であったこと、コロナ渦というハンディを抱えながらであったこと等を考えると、評価に値する。
- ・パブリシティーが足りてないのではないかと。社会的役割も大ですし、期待も大きいので、一般市民を含めてより多くの告知活動を実施し、社会への貢献度合いの向上に役立っていただきたい。
- ・経済的・精神的基盤からも学習の理念からも、SDGsを研究・推進するのにふさわしいと考える。徹底的にSDGsの内容を学習し、様々な業種にこの理念を理解した人材を送り出すというのは面白いのではないかと考える。

(5) 閉会

終わりに、学院長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶を行った。本校における評価を真摯に受け止め、教育の質の向上、コロナ禍における留学生の受け入れ対応、社会人の学び直しを推進すべくリカレント教育の研究を進めていき、評価すべき取り組みは継続し、課題や改善点を整理し、改善方策を検討していく旨、報告があった。

以上